

日本語の受入れられ方

— 日本語由来の外来語 —

多和田 眞一郎

従来、日本語の「受入れ」のみに重点が置かれ、「受入れられ」の観点からする外来語研究は少かったのではあるまいか。つまり、日本語が外国語をいかに受入れ（てい）るかがほとんどで、日本語が外国語としていかに受入れられ（てい）るかという方向から日本語を見ることがあまりなかったのではないか。もっとも「外来語」と言うのだから「行」方向（「外行語」!?) が眼中にないのは当然であるかもしれない。

日本語の姿を見据えるためには、逆方向からの視点も重要だと考え、今回の試みとなった。ところで、朝鮮語から日本語に入った「外来語」は、さして多くない。いま、『基本 外来語辞典』（石綿敏雄編、東京堂出版、1990年9月）により朝鮮語由来の外来語を調べてみる。

- アリラン （朝鮮民謡の一つ。伝説上の峠の名）
- オンドル （朝鮮・満州での暖房装置）
- オンムン （朝鮮民主主義人民共和国・大韓民国の文字。ハングル）
- キムチ （朝鮮のつけ物）
- チマ （朝鮮の婦人の衣裳）
- チョゴリ （朝鮮の婦人服の上衣）
- チョンガー（独身男）
- パッチ （長いももひき。転じて、ズボンした）
- ハングル （韓国、北朝鮮で用いる文字）
- メンタイ （すけとうだら）

それこそ、数えるほどしかない。これに反して、朝鮮語の中に「外来語」として入った日本語の例は、多い。近い過去における歴史上の関わりに起因することは疑いあるまい。ちなみに、印刷・土木・裁断（服）・飲食関連分野の語が多いことが注目されよう。

これから『韓国外来語辞典』（裴亮瑞編、塔出版社、1976年7月）を資料とし、朝鮮語に入った日本語由来の外来語の分析を通して日本語の一側面に迫ろうとする。資料的には少々古いが、この文献を選んだのは「いろいろな国語辞典において、知っていても知らんふりをしてうち捨てている日本語から入ってきた言葉も収集した通りに載せた」（P5）ものであって、得難い資料と判断されたからである。

便宜上、「五十音図」の「行」を単位として考察を進めていくこととする。

なお、朝鮮語の場合（特に破裂音・破擦音において）、「語頭」と「語中」とでは音声的現れを異にするので、用例に関してはこの点にも意を注ぐ。
(注1)

1. 子音

(1)カ行の子音

基本的には、ハングルの「ㄱ (k)、ㅋ (kh)、ㄲ (kk)」で表示されているが、「스 (c)、ㅎ (h)」の例が散見される。

(語頭の用例)

가가리 (係)、가나구 (金具)、가리즈리 (仮刷); 기가라 (木栖)、기모노 (着物)、기지 (木地); 구로 (黒)、구루마 (車)、구찌 (口); 게이 (罫)、짐삐이 (憲兵); 고데 (鋏)、고마다 (小股)、고시나계 (腰投); 가꾸마 (客間)

카도 (角)、쿠세 (癖)、킹쿠세 (きんくせ)

꼬봉 (子分)

지사미 (刻み煙草)

호부 (瘤)

ハングル「ㄱ (k)」で統一的に表示されていないところが興味を引く。「ㅋ (kh)」が有気音を、「ㄲ (kk)」が無気音を表記する文字であるから、そのように写された日本語の語が、環境的にそのような様相を呈するということであろう。用例で見る限りでは、アクセントや後続の子音に原因がありそうである。

有気・無気の延長線上にあると考えられるのが、「キ」相当部分が「지」[tʃi]、「コ」相当部分が「호」[ho]と表記されている例である。それぞれ破裂音が、破擦音及び摩擦音として受入れられたのである。

(語中の用例)

가가리 (係)、가다가계 (肩掛)、다데가에 (立替)、삐가 (馬鹿); 나미게이 (波罫)

킹쿠세 (きんくせ)、무네쿠세 (胸癖)

구강쓰미 (区間積); 나까미 (中味)、사까다찌 (逆立); 네마끼 (寝巻)、다루끼 (垂木)、미가끼 (磨); 니꾸 (陸)、다꾸양 (沢庵)、오꾸리 (送); 가계 (掛)、고께이 (滑稽)、우께도리 (受取); 데꼬보꼬 (凹凸)、미꼬미 (見込)、양꼬 (餡こ)

概して、「ㄲ (kk)」で表示されている。日本語の破裂(無声)音が、語中においては気音が少なくなることを反映しているものと思われる。しかし、無気音で表記され、そのように発音されたものを日本人が聞けば、促音のように感じるであろう。たとえば、「나까미」は「なっかみ」、「오꾸리」は「おっくり」のように。つまり、もう日本語ではなくなってしまふわけである。もっとも、これが外来語たる所以であるが。

日本語の「(破裂)無声音」であることに近付けるためには、有気音を示す「ㅋ (kh)」で表記したほうがよいと思われるのであるが、それでは強すぎると感じられるのか、気音の弱い(とされる)「ㄱ (k)」で表記される。「가가리」「나미게이」などがそれである。しかし、これらは朝鮮語の環境では有声音の発音となり、[kagari]「かがり」、[namigei]

「なみげい」となってしまう。

「ㄱ」表示は、前後の影響で気音の強く感じられる例である。

(2)ガ行の子音

語頭・語中ともにハングル「ㄱ (k)」で表示されることを原則とする。ただし、これでは、語中の場合は有声音〔g〕で実現するが、語頭の場合は無声音〔k〕にしかならない。

有声(破裂)音の気音の少なさを具現しようとするれば「ㄱㄱ (kk)」が要請される。しかし、その時点で、日本人には「促音」としか受取れない音声へと変化する。たとえば、가꾸라「かっくら」、다마꼬「たまっこ」など。

「ㄱ (kh)」の例はない。

(語頭の用例)

가꾸부찌 (額縁)、가꾸 (逆)、게다 (下駄)、고부가리 (五分刈)

(語中の用例)

가다가끼 (肩書き)、랭가 (鍊瓦)、사가리 (下); 다마네기 (玉葱)、우와기 (上衣); 에노구 (絵具)、다데구미 (縦組)、마구찌 (間口); 가리아게 (刈上)、고시나게 (腰投)、오미야게 (御土産); 가고 (籠)、기고데 (木鐸)、미고로 (身傾)

가께쓰기 (影付)、가꾸라 (神樂)、다마꼬 (卵)

(3)サ行の子音

ハングル「ㅅ (s)」で表示されている。特に問題はないが、「す」相当部分が「수 (su)」ではなく、「스 (su)」 「쓰 (ssu)」とされる点が注目される。このことは「母音」の項で改めて述べる。

(語頭の用例)

사쌍 (左官)、사시미 (刺身)、사꾸라 (桜)、샤꾸리 (しゃっくり); 시끼리 (仕切)、시로도 (素人)、시바이 (芝居); 스시 (寿司)、스이지바 (炊事場) 승뽕 (寸法); 셈뽕 (新品)、세다게 (背丈)、센누끼 (栓抜)、셈방 (旋盤); 소데 (袖)、소마 (蕎麦)、소마 (相場)

(語中の用例)

가사 (傘)、다가사 (高)、아싸리 (あっさり); 가꾸시 (隠)、가부시끼 (株式)、미다시 (見出); 가스레 (掠)、단스 (簞笥)、모찌나오스 (持直)、다쓰끼 (纏); 쿠세 (癖); 미소 (味噌)、가미소리 (刀剃)、아소비가미 (遊紙); 가께쇼지 (掛障子)

(4)ザ行の子音

ハングル「ㅈ (c)」で表示されるのが原則と言える。ただし、この字は語頭では [tʃ]、語中では [dʒ] と発音される。中期朝鮮語までは [z] を示すとされるハングル「ㄷ」が

使用されたが、現代語ではそれがないから、近いものとして「ス」を当てざるをえないのである。

「ず」相当部分に「즈」「쓰」が当てられている例があり、「す」と平行的である。

「ざ」「사」が対応している例は、「ス」の誤植の可能性を残しながらも、興味あるものである。

(語頭の用例)

자부동 (座蒲団)、짱겜뽕 (じゃんけんぽん); 지도가다 (自動型)、지도리 (字取); 준세이 (純正); 져사이 (前菜)

(語中の用例)

가사리 (飾縫)、기사미 (刻)、가자리 (飾)、히자마와리 (膝回)、부라자 (ブラジャー)、게시모지 (消文字)、네지꺼 (寝敷)、요지 (楊枝); 고조 (小僧)、곤조 (根性); 당꼬쓰봉^(注2) (短袴ズボン)、이로즈리 (色刷)、네즈미 (鼠色)、이레즈미 (刺青)

(5)タ行の子音

「た、て、と」と「ち、つ」とでは趣を異にする。

「た、て、と」は、ハングル「ㄷ (t)」で表示されるが、語的に「ㄷ (tt)」の例がある(語中のみ)。ただし、この無気音表示ハングルは、「ㄱ (kk)」の時と同じように、「促音」のようになってしまう。

「ち」は、ハングル「ㅅ (c)、ㅆ (cc)、ㅅ (ch)」で表示される。

「つ」は、ハングル「ㅆ (ss)」で表示される。「ㅅ (c)」が [ts] ではなく [tʃ] を示すために、これが使えず、代わりに「ㅆ (ss)」が採用されたい。それも「ㅅ (s)」ではなく「ㅆ (ss)」であることに意味がある。

「つ」の場合、母音が「ㅡ (u)」であることも注目される。「す」「ず」参照。

(語頭の用例)

다나 (棚)、다다미 (畳)、다비 (足袋); 데나오시 (手直)、덴조 (天井)、데깁 (鉄筋); 도꾸이 (得意)、도꾸리 (徳利)、도당 (トタン、tutanga)

지지미 (縮)、지리가미 (塵紙)、짬바 (跛)、차보 (矮鷄)、조시 (調子); 쓰까 (束)、쓰메끼리 (爪切)、쓰야다시 (艶出)

(語中の用例)

가다 (肩)、게다 (下駄)、마다시다 (胯下)、모따게 (擡); 가다아데 (肩当)、고데 (鋺)、곤다데 (献立); 누이도지 (縫綴)、모도이찌 (元位置)、아도도리 (後取)

가꾸부찌 (額縁)、고꾸찌 (小口)、네마찌 (值待)、신쥬 (真鑰); 미쓰소로에 (三揃)、시쓰게 (仕付)、아쓰라에 (誹)

ちなみに、語中の「ㄷ」は有声音となり、[d] となるから、「ダ行音」と対応してしまう。たとえば、다다미 [tadami]、고데 [kode] など。

また、「ㄷ」「ㄹ」は「促音」的となる。「ㄱ」参照。

(6)ㄷ行の子音

「だ、で、ど」と「ぢ、づ」とで趣を異にすることは「ㄷ行」の場合と同様である。

「だ、で、ど」は、ハングル「ㄷ (t)」で表示される。ただし、これは、語頭では無声音を示すから「ㄷ行音」と同じになってしまう。

「ぢ」は、ハングル「ㄷ (c)」「ㄷ (cc)」で表示される。

「づ」は、ハングル「ㄷ (c)」「ㄷ (ss)」で表示される。ただし、受入れ側には、「づ=ス」「づ=쓰」という意識があるように思われる。구짱쓰미 (区間積) に「クカンツミ」という仮名が添えられているのがその例。同様に오리쓰메 (折詰) も「おりつめ」と考えられている節がある。간즈메 (缶詰) 参照。

(語頭の用例)

다이 (台)、다시 (煮出)、단도리 (段取); 데꼬보꼬 (凸凹)、데빠리 (出張); 돛부리 (井) 지까다비 (地下足袋)、지미 (地味)、찐 (陣)

(語中の用例)

가이당 (階段)、니다이 (荷台)、미다시 (見出); 가다소데 (片袖)、하데 (派手); 가도 (角)、구기도메 (釘止)

지지미 (縮); 간즈메 (缶詰)、오꾸즈께 (奥付)、니즈꾸리 (荷造)、구짱쓰미 (区間積)、오리쓰메 (折詰)

なお、「づ」の母音が「- (u)」であることは「ず、ず、づ」と同じ。

(7)ㄴ行の子音

ハングル「ㄴ (n)」で表示されている。特に問題はない。

(語頭の用例)

나가지 (流)、나가야 (長屋)、나미 (波); 니다이 (荷台)、니부가리 (二分刈); 누이도지 (縫綴)、누이시로 (縫代); 네고로 (値頃)、네마끼 (寝巻)、네지야마 (振山); 노가꾸 (能楽)、노미 (鑿)、노바시 (延)

(語中の用例)

가나 (かな)、가나구 (金具)、곤나꾸 (寇弱); 베니 (口紅)、센누끼 (栓抜)、가리누이 (仮縫); 다가네 (鰯)、다마네기 (玉葱)、사시가네 (差金); 기모노 (着物)、마루노꼬 (丸鋸)、아이노리 (合乗)

(8)ハ行の子音

ハングル「ㅎ (h)」で表示されている。

(語頭の用例)

하꼬 (箱)、하데 (派手)、하라마끼 (腹巻); 히니꾸 (皮肉)、히사시 (日差)、히야시 (冷); 후다 (蓋)、후끼쓰께 (吹付)、후스마 (襖); 헤리 (縁); 호리 (掘)、호리아게 (掘上)、혼다데 (本立)

(語中の用例)

가다하바 (肩幅); 잔땅후꾸 (簡單服); 오리홍 (折本)

(9)パ行の子音

ハングル「ㅍ (pp)」で表示される。ただし、語中の場合は「促音」的響きを帯びることとなる。無気音であるがゆえに。現に「促音」の例もある。

(語頭の用例)

빠짱꼬 (パチンコ)、빠리빠리 (ぱりぱり)、뽕끼 (ペンキ)

(語中の用例)

가다빵 (固パン)、이빠이 (一杯); 땀뿌라 (天ぶら); 짐빼이 (憲兵)、몸빼 (もんぺ); 승뽀 (寸法)、유담뽀 (湯婆)

(10) バ行の子音

基本的にハングル「ㅍ (p)」で表示される。ただし、語中の場合は有声音となるからよいためであるが、語頭の場合無声音となるから「パ行の子音」の様相を呈してしまう。それをカバーしようとしたかと思われるのが、「ㅍ가」の例である。

(語頭の用例)

ㅍ가 (馬鹿)、바네이다 (弾機板); 비루 (ビール); 부또시 (ぶっ通し)、부쓰께 (打付); 베니 (口紅)、베로 (舌)、벤또 (弁当); 보로가부 (ぼろ株)

(語中の用例)

가다하바 (肩幅)、고바이 (勾配)、마바라 (疎); 다비 (足袋)、오비시 (帯紙)、요비링 (呼鈴); 가부리 (被)、꼬붕 (子分)、자부동 (座蒲団); 가베 (壁)、구찌베니 (口紅)

(11) マ行の子音

ハングル「ㄹ (m)」で表示される。特記すべきことはない。

마구찌 (間口)、마루 (丸)、마메 (豆); 미가끼 (磨)、미꼬미 (見込)、미소 (味噌); 무가사리 (無飾)、무끼 (向)、무라 (斑); 메구미 (恵)、메끼 (減金)、메모리 (目盛); 모따게 (擻)、모찌 (餅)、몸메 (匆)

가마보꼬 (蒲鋒)、고다마 (小玉)、아마리 (余); 가미소리 (刀剃)、게나미 (毛波)、사

시미 (刺身); 오무라 (大斑); 마메 (豆)、세메끼리 (縮切)、하도메 (鳩目); 가나모노 (金物)、구모가다 (雲型)、기모노 (着物)

(12) 라행の子音

한글 「ㄹ (r)」로 표시されるのを原則とするが、語頭で 「ㄴ (n)」의 例がある。朝鮮語의 「ㄹ」は、特に漢字音に関して、語頭の場合脱落するか 「ㄴ」に変わるかの変化を見せるが、この後者に準じた現象とみなすことができよう。

(語頭の用例)

라이타 (ライター)、란드셀 (ランドセル); 리무 (リム)、리야까 (リヤカー); 롬펜 (ルンペン); 레루 (レール)、랭가 (鍊瓦); 로케 (ロケ)、료마에 (兩前)

나사 (ラシャ)、니꾸 (陸)、노꾸망 (六万)

(語中の用例)

가라 (柄)、가라데 (空手)、나라시 (平); 가가리 (係)、가리누이 (仮縫)、기레바리 (切張); 구루마 (車)、마루야끼 (丸焼)、하루나 (春菜); 가레기 (枯木)、가스레 (掠)、아레루 (荒); 곤로 (焜爐)、구로 (黒)、시로누끼 (白拔)

ちなみに、곤로는 [kollo] という発音となり、日本語から離れてしまう。

2. 母音

(1) /ア/

한글 「ㅏ (a)」로 표시。用例を示す。

아마리 (余)、가꾸시 (隱)、사라시 (晒)、다마 (玉)、나미 (波)、하구루마 (齒車)、마루 (丸)、야끼도리 (燒鳥)、라이타 (ライター)

(2) /イ/

한글 「ㅣ (i)」로 표시。

이빠이 (一杯)、무끼 (向)、우와기 (上衣)、시끼리 (仕切)、나미지 (並字)、찐 (陣)、니다이 (荷台)、히야시 (冷)、다비 (足袋)、미가끼 (磨)、도꾸리 (徳利)

(3) /ウ/

한글 「ㅜ (u)」로 표시。ただし、「ㅜ」「ず」「ㅜ」「づ」の場合は 「ㅡ (u)」로 표시。

우끼 (浮)、구미 (組)、가나구 (金具)、누이시로 (縫代)、후다 (蓋)、데미뿌라 (天ぷら)、돛부리 (井)、무라 (斑)、구루마 (車)

스시 (寿司)、가리즈리 (仮刷)、와리쓰께 (割付)、니즈꾸리 (荷造)

(4) /エ/

ハングル「에 (e)」で表示。「애 (ε)」「헤 (je)」「케 (je)」の例はない。

에리미소 (襟溝)、게이 (罷)、게다 (下駄)、센누끼 (栓抜)、젠사이 (前菜)、댕구 (天狗)、하데 (派手)、네마끼 (寝巻)、헤리 (縁)、몸빼 (もんぺ)、벤또 (弁当)、마메 (豆)、랭가 (鍊瓦)

(5) /オ/

ハングル「오 (o)」で表示。「오 (o)」の例はない。

오꾸즈께 (奥付)、고다마 (小玉)、고부가리 (五分刈)、네고로 (値頃)、소데 (袖)、고조 (小僧)、도꾸이 (得意)、가도 (角)、노바시 (延)、호리 (掘)、슴뽀 (寸法)、데꼬보꼬 (凸凹)、기모노 (着物)、네고로 (値頃)

(6) 長母音

長母音の表示された例は見あたらない。「長音の省略は、既に大部分の新聞で実施している」(P4)云々から窺えるように、長音表記をしないのが資料とした本『韓国外来語辞典』の立場らしい。次の例のように。

고리 (行李)、노가꾸 (能楽)、요깡 (羊羹)、심보 (心棒)、시로도 (素人)、소바 (相場)、곤조 (根性)

(7) 母音の無声化

その反映だと思われる例がある。

옥상 (奥さん)

3. 半母音

用例のみを示す。

(1) ヤ行音

야끼모 (焼芋)、야스리 (鱧)、나가야 (長屋)、히야시 (冷); 유까 (床)、아유미 (歩); 요깡 (羊羹)、요지 (楊枝)

(2) ワ行音

와리가다 (割型)、와이로 (賄賂)、기와간나 (際鉋)、시와가미 (皺紙)

4. その他

(1)促音

「ㅍ (pp)」、「ㅌ (tt)」、「ㄱ (kk)」、「ㅈ (cc)」と四様に表示しわけられている。

①/QP/の例

데빠리 (出張)、이빠이 (一杯) / 도로뿌스 (ドロップス)、스리빠 (スリッパ)

②/Qt/の例

부또시 (ぶっ通し) / 나또 (ナット)、레테르 (レットル)、빠따 (バッテリー)、샤따 (シャッター) / 핀 세트 (ピンセット)

③/QK/の例

고께이 (滑稽)、데깁 (鉄筋)、도꾸리 (徳利) / 도라꾸 (トラック)、도로꼬 (トロッコ)、라꾸 (ラック)、빠꾸 (バック)、바라꾸 (バラック)、스테끼 (ステッキ)、조끼 (チョッキ) / 파크 (パック)、즈크 (ズック) / 룩삭 (リュックサック)、왁스 (ワックス)

④/QC/の例

모이쑈 (もう一丁) / 구라쨌 (クラッチ)、빠지 (バッジ)

「-트」「-크」の例は、(日本語の促音に)有気音の現われることを、「-」(パッチムの形)は、母音の無声化を、それぞれ示していると考えられよう。

(2)撥音

環境・条件による書き分けが見られる。即ち、「ㅍ (pp)、ㅍ (p)、ㅁ (m)」の前では「ㅁ (m)」、「ㅌ (tt)、ㅌ (t)、ㅅ (s)、ㅈ (cc)、ㅈ (c)、ㄴ (n)、ㄹ (r)」の前および語末では「ㄴ (n)」、「ㄱ (kk)、ㄷ (k)」「ㅎ (h)」「母音」の前および語末では「ㅇ (ŋ)」である例がほとんどである。ただし、例外的に「ㅈ (ss)」の前で「ㄴ (n)」、「ㅍ (pp)」の前で「ㅇ (ŋ)」の場合がある。

語末で「ㄴ (n)」である例は、朝鮮語の発音の干渉の可能性が高い。「線」は朝鮮語では「선 (son)」、「円」は「원 (won)」である。

젼뻬이 (憲兵)、뎡뿌라 (天ぷら)、슴뻬 (寸法)、유담뻬 (湯婆)、짱뻬뻬 (じゃんけんぽん) / 구롬보 (黒坊)、돛부리 (井)、셈방 (旋盤)、심보 (心棒) / 담비 (鍋) / 뎡뻬 (匆)

뎡뻬 (弁当)、곤다데 (献立)、단다이 (短台)、뎡동 (天井) / 젼세이 (牽制)、단스 (箏笛)、젼사이 (前菜) / 신쑈 (真鍮)、간조 (勘定)、곤조 (根性)、간즈메 (缶詰)、한스봉 (半ズボン) ; 곤나꾸 (蒨弱)、기와간나 (際鉋)、센누끼 (栓抜) ; 곤로 (焔炉) ; 마끼센 (巻線)、엔 (円)

당꼬쓰봉 (短袴ズボン)、빠짱꼬 (パチンコ)、싱꼬 (新香)、방까이 (挽回)、짱뻬뻬 (じゃんけんぽん)、뎡끼 (ペンキ) / 짱기리 (缶切) / 뎡구 (天狗)、뎡가라 (べんがら)、싱가다 (新型)、아까랑가 (赤鍊瓦) / 구짱쓰미 (区間漬) / 간뎡후꾸 (簡單服) / 쟁에리 (劔)

襟) / 빵빵 (パンパン) / 카이당 (階段)、꼬붕 (子分)、데깁 (鉄筋)、싱 (心)、오리흥 (折本)、옥상 (奥さん)

現代日本語では死語・廃語になった例も多い。そして、これらが現在（韓国で）実際に使用されているかどうかの確認も怠っている。20年前に「採集」されたものをそのまま使って分析しただけである。また、韓国における最近の外来語研究に触れることもできなかった。しかし、今回の分析は、それとは独自に成立する内容のものと考えられるから相応の価値は有するであろう。

(注1) 正確には、母音間及び「ㄴ (n)、ㄹ (m)、ㅇ (ŋ)、ㄹ (r)」と母音との間である。

(注2) 本来の日本語ではないが、日本語を経由して朝鮮語に入ったと考えられる例。以下、同様。